



沙草集

雜

特別
~5
6698
4



貴
25
6698
4

沙金袋目錄

鷹

鳩吹

溫點

竿

色鳥

木實

木子

菊

付首供

十日菊

鷓鴣

蘭

礎

鷓

早花

秋田

稻妻

葛

葛

紅糸

付首供
若木紅糸

色葉

席

色蕉

花紫

竿穗

小鷹

煖酒

九月盡

雜秋

河王

目録



沙金袋 雅

鷹

為鳥乃平のふらふらやうとれら
乾坤乃文字のまらまら一矢深鳥
一畫つまのめり乃のまらまら
鳴ゆやふ方うん乃のまらまら山
橋あうそまらまらや天津一
鳥のまらまら車のみはら
わらうのまらまら一はらまら

橘

不羈者
松安
安成
勝明
定正
重吉
不知者

うらうらひのあはれぬ文字の冠の如 玄権

後教のりまはるる字の如 同

笔勢やいさそくくく字の文字 泉列小寺 義和

まじ文字の濁の如 三采 元利

後よこもいさそくく字の如 生野 重真

風乃のゆるり字の若くせ 芳艱 調友

一射の筆とやいさそく字の如 成賢

飛鳥の羽風をわく 春元

進むる鳥の爪の如 光永

物立の文字の 正行

倉のいさそく字の切や 一有

三葉のゆるり字の如 光正

まじり字の如 同

鳥羽のゆるり字の如 正在

やうやくの如 善種

またのゆるり字の如 正伯

ゆるり字の如 素白

鳩吹

吹のゆるり字の如 正伯

溪點

夕のまゝ後流乃始や夕の獲川 宗畔
 初んて夕のまゝ夕の始りる 大坂津中 清然
 網の自然わく流能や流まれの 正伯

芋

芋のまじりて夕のまゝ夕の獲川 吟夕
 初んて夕のまゝ夕の始りる 月
 芋のまじりて夕のまゝ夕の獲川 夕首

夕のまじりて夕のまゝ夕の獲川 正武
 初んて夕のまゝ夕の始りる 郡山 重一
 芋のまじりて夕のまゝ夕の獲川 薩十 謙也
 初んて夕のまゝ夕の始りる 正定
 芋のまじりて夕のまゝ夕の獲川 正重
 初んて夕のまゝ夕の始りる 松坂 重吉
 芋のまじりて夕のまゝ夕の獲川 加友
 初んて夕のまゝ夕の始りる 正伯
 芋のまじりて夕のまゝ夕の獲川 日

色鳥

鷺の飯小鳥の海くそ綿小田乃文 素白
 め志ろつやの念道いそそあひむくそ 宗暉
 りそそや〜女と子猷の秋乃鳥 光正
 又鳥のい上鳥〜してや甲午〜 正種
 念よ念入〜るも燕乃甲午〜 重利
 意好〜う〜もやあ〜ん甲午〜 喜之
 けろひ志あよ志むさひ小鳥乃鳥 光次
 め〜ら〜るの鳥をけ子乃〜さ〜か 一有

山〜もや〜る〜う〜の〜く〜る〜鳥〜り 正伯
 意〜ろ〜つ〜や〜の〜念〜道〜い〜そ〜そ〜あ〜ひ〜む〜く〜そ 豊隆
 り〜そ〜そ〜や〜〜女〜と〜子〜猷〜の〜秋〜乃〜鳥 正在

木實

柿の實よか仕乃〜あ〜る〜鳥〜り 知重
 燕食乃法乃柿乃鳥を〜も〜や〜あ〜る〜鳥〜り 保友
 柿衣脱やあ〜る〜う〜〜月よ〜り 重尚
 判りて〜じ〜さ〜い〜なる〜柿〜や〜あ〜は〜る〜鳥〜り 正久
 あ〜る〜柿〜と〜あ〜る〜ら〜る〜さ〜い〜木〜乃〜鳥〜り 行正

井世

味もやふさ乃のあふさ乃ふさふさ
 善明
 毛指のあ人の家の木乃さうれ
 一有
 せらふさ乃のあつさ乃指の換指小
 善種
 季ふさ乃のあふさ乃のあふさ乃の指
 正在
 あつさ乃のあつさ乃のあつさ乃の指
 翁無
 扱さ乃のあつさ乃のあつさ乃の指
 光正
 中乃のあつさ乃のあつさ乃の指
 同
 為さ乃のあつさ乃のあつさ乃の指
 素白
 清正指のあつさ乃のあつさ乃の指
 同
 清正指のあつさ乃のあつさ乃の指
 正伯

毛指のあつさ乃のあつさ乃の指
 同
 扱さ乃のあつさ乃のあつさ乃の指
 同
 為さ乃のあつさ乃のあつさ乃の指
 善種
 清正指のあつさ乃のあつさ乃の指
 一有
 大とよさ乃のあつさ乃のあつさ乃の指
 幸以
 貸さ乃のあつさ乃のあつさ乃の指
 一雪
 為さ乃のあつさ乃のあつさ乃の指
 素白
 せらふさ乃のあつさ乃のあつさ乃の指
 善明
 扱さ乃のあつさ乃のあつさ乃の指
 正伯
 清正指のあつさ乃のあつさ乃の指
 同

しほくさふくすすらふ丹波

熊野_山梅雪_山妻

人のこころしるひのこころをこぼして

子らこころふ念佛乃西条

善種

次人の兄の追ひ者

あまらるやつらあふねいあらふ紫

日

あまらるやつらあふねいあらふ紫

一有

あまらるやつらあふねいあらふ紫

一雪

あまらるやつらあふねいあらふ紫

光正

あまらるやつらあふねいあらふ紫

了首

追ひ者

あまらるやつらあふねいあらふ紫

西田 定勝

あまらるやつらあふねいあらふ紫

行正

末子

あまらるやつらあふねいあらふ紫

大山 謙也

あまらるやつらあふねいあらふ紫

大坂 道清

あまらるやつらあふねいあらふ紫

一有

あまらるやつらあふねいあらふ紫

素白

あまらるやつらあふねいあらふ紫

正伯

あまらるやつらあふねいあらふ紫

勝直

通文

根の本乃子そそそかそそび本の根

勝直

菊

付節句
十日菊

九月也菊乃字の中乃米の種
菊とらふふさや麴を伴るる花
氣中と花乃ぬよせよ菊の園
物あそぶ菊の花乃寝起く外
さくともあつあけさくういあん菊の酒
是の飯い飯分あつさ一菊の酒

姫路

貞徳

一才

松安

由貞

忠政

道可

碎の種とそそまといせらあ葉の角
くまらそやさやいとれと葉の角
あつらあやあつらとつらと葉の
酒よけらとあつらとあん葉の園
うげーうい秋とさなやまの角
葉酒のそとさつ川乃あつら
精あまのそとさつらとら葉の酒
大白乃花やあつら葉の草
あまの葉乃口陽志らや葉の花
去一兄乃あつらとらとら

一武

秀盛

了首

円

正種

円

北村

宗清

不親者

円

云々

後

葉の身は兄の異母や葉の系
 世とて死とありてせんとや
 よそにのこりてや解ある葉の系
 例はらむにすむる葉の系
 身は世やまゝありて世の系
 簡浮樹のおろしきもや金菊
 葉の内は園よなまゝありて

重連 納元 一子 治長 成政 頼廣 可啓 仲之

葉とてよく授けられたるものなり
 例はらむにすむる葉の系
 葉の身は兄の異母や葉の系
 世とて死とありてせんとや
 よそにのこりてや解ある葉の系
 例はらむにすむる葉の系
 身は世やまゝありて世の系
 簡浮樹のおろしきもや金菊
 葉の内は園よなまゝありて

忠政 以專 正信 春元 可水 空昌 一有 正在 同

河洲小寺

世

花乃梅葉上は初ふ葉の酒 翁舟
 中は櫻池のりんか天鼓の葉の酒 光正
 紅き香とくちりりあふせん葉の花 月
 種る葉よ酒を地ぬそ葉の園 月
 宿るのよとわいとうーあひ翁草 素白
 例る何回海のゆを中草 月
 根とあさくうああひ翁草の園 月
 育てや花と集けり翁草 月
 三ひのりうらや一ひの葉 島 正伯
 基つたよんくひあまのや葉の酒 月

うひいひのさくさくも葉の合 月
 葉よとくち海の葉や光る 月
 垂陽乃そーりくういん中草よ 善種
 花る葉るりあひ一鳥葉の酒 月
 葉乃あひやあひくいのらひい葉 月
 又その葉もきふんをくらの祝葉 春元

廻文

長くそ葉おひいんいんあさくうあ
 松坂 加友

十一日

世五

十日草子の花の法よりまゝに
 筆の酒さのふよまの斗持
 くのふこくしと日くりもや
 りけり筆のこまふりり十文字
 いさくふ古今あの名筆の酒
 筆の圓きふりやほいさ十海
 宗安 善種 正伯 光正 素白 月

鴨
 うも鴨や佐吉の柿の柿子の果
 鴨鴨をおりひの池う川原鴨
 正伯 素白

田丈のふ小鴨の池乃秋の書 正在

蘭

葉非若長りや二月田山 松安
 鴨乃紋りし松をよるをり教るぬ 不羅著
 花さるの気やあらんぬ教るぬ 月
 されせこれ松をらつよきや友袴 正久
 裁てぬく目道も舞入教るぬ 本之
 くのあもふぬ花や白衣の教るぬ 盛次
 作巻のつりのこのころ花乃友袴 一有

造る

野とらりの目乃のあひのあたる
 野も山も天下太平ならん
 釣魚を挂かす押や業の税
 ぬつてくわく露もやあたる
 物の野はあつたやあたる
 糸糸や綴つてあたる
 花乃のあつた百王のあたる
 ぬや天使露乃のあたる
 腰のあつたあひのあたる

正在
 光正
 正伯
 同
 同
 翁舟
 素白
 同
 善種

野のいろも候あつたあたる
 首乃のあつたあたる

保壽
 妻
 紹良

礎

天う下おするあたる
 字のあつたあたる
 まげえくらあたる
 神のあつたあたる
 皆くくあたる
 亦像た衣乃神あたる

妻
 春元
 同
 松安
 同
 伯貞

うらふあふは付違はる衣うを
 小指子のすやとあふも能衣裳
 重うくまうつやうまひくす指
 指うらも指うあやのらあふ
 多々拂ふ二十棒やうひらあふ
 おり申あひ破らうくや濕履
 えやの衣うひや指子もあふん
 舟履西もあやあふ小指う那
 舟むう指の冬あふあてしう那
 うひらうあてしうあふ指う乳
 以專
 正時
 頼廣
 宗秀
 宗甫
 知泉
 不響
 教心
 同
 素白

あもあふうううううううう
 地ああやうううううううう
 うううううううううううう
 舟あうううううううううう
 同
 善種
 正伯
 同
 翁舟

鶴

年あうううううううううう
 鶴あうううううううううう
 回ううううううううううう
 尾あうううううううううう
 正伯
 善種
 正伯
 善種
 正伯
 善種

勢ひつらうのいふの物り物籍 素白

草花

花軍あついのまの物り物寺 一安
ひまひまのつらうの物り物 昌常
と痛やうまをいふまの物り物 伯貞
おつらうの物り物 月
一橋の物り物 重吉
花の量鉄炮あついの物り物 重寧
おつらうの物り物 業辰

花風を物り物軍の物り物 永定

親の物り物や後物り物 秀盛

あつらうの物り物 不交

花の物り物や物り物 正重

杖の物り物花の物り物 可是

兵の物り物花の物り物 正伯

物り物花の物り物 月

花の物り物花の物り物 三右

花の物り物花の物り物 成賢

花の物り物花の物り物 道重

我毛もや功るり名もひてなるの故
それより身もあつてもいふらん小
如就院 素白
日如

奥文

みふ野かゝるもいふる光の夜
伯貞 親信

秋田

山田もる傳教も美彦の守り
美乃入るもいふる山田うか
白菰を伴ふ田作もや松田
山田もる傳教もや奉ふ若の心
氏長 以專 幸信 貞因

よりけりいふる新もいふる飯お田
百粒もいふる彦作もいふる傳教も
傳もいふる松田もいふる野かか
松乃田もいふる彦作もいふる飯お田
同松田もいふる松田もいふる松田
松乃田もいふる彦作もいふる傳教も
守田もいふる傳教もいふる松田も
松乃田もいふる彦作もいふる飯お田
松乃田もいふる彦作もいふる飯お田
松乃田もいふる彦作もいふる飯お田

うらむじ田より地ひたる蟬か 正盛
 肥るく種にかかるとるの田つゝか 忠清
 一枚よ地よりみくらむじりるか 宗秀
 地のみ田より地つ天智天王寺 巽孝
 麻ををりくを原のきりり田か 正行
 名を鬼ををりつゝもし田の種麴 勝直
 いろはにはほくせよ時田におくてか ^種貞重
 午去るく後のみりりみま種か 重成
 吾あつていよみりりみま種か 正安
 地同よ田より美の入知りりれ 正在

地を地りる種種よりりりりか 一有
 かつて種種よりりりりりりり 元正
 おくつてりりりりりりりりり 月
 見あつてりりりりりりりりり 素白
 地りりりりりりりりりりりり 貞辰
 こりりりりりりりりりりりり 善種
 穂にお見りりりりりりりりり 正伯
 一らんのみりりりりりりりりり 月
 地りりりりりりりりりりりり 月

指妻

指つゝのひもやあつゝの男の子
 こいつらんもゆそめいらつゝ指の女
 指妻とてんあつゝの影のあつゝ
 指つゝのひもやあつゝの女
 指妻の種とてんあつゝの女
 指妻よ惚れつゝの坊主とてん
 野よ伏や身つゝのあつゝの指の女

宗時
 素白
 正伯
 日
 正在
 正種
 友次

葛

葛の葉やうつゝの女下ま
 葛のうつゝの女下ま
 葉とてんあつゝの葛の女
 うつゝの葛とてんあつゝの女
 うつゝの葛とてんあつゝの女

正伯
 素白
 一有
 光正
 三成

葛

葛の葉のあつゝの女下ま

友益

きよみよ松よの錦よ 一武

二河白なる松よの錦よ

ほそなるきよなる松よの錦よ 素白

松 付の松

松よもよの松よの松よ 定正

松よもよの松よの松よ 信重

山乃天よの松よの松よ 了首

山乃松よの松よの松よ 正平

山乃松よの松よの松よ 成元

奥よもよの松よの松よ 一武

松よもよの松よの松よ 松安

松よもよの松よの松よ 松安

立田川よの松よの松よ 吉重

立田川よの松よの松よ 光正

立田川よの松よの松よ 一有

立田川よの松よの松よ 一有

立田川よの松よの松よ 正近

立田川よの松よの松よ 自安

立田川よの松よの松よ 自安

折てあむおまゝのうらみ 平聲 良賢
 じよの深からいふおまゝのうらみ 翁舟
 こゝろをいふおまゝのうらみ 正在
 りふらして氏子もさるる三田塔 正伯
 うらみあむおまゝのうらみ 日 海天臺
 小秋もいふおまゝのうらみ 素白 初紅象
 おまゝのうらみ 日 岑乃松
 おまゝのうらみ 日 立田塔
 おまゝのうらみ 善種 寺乃象
 おまゝのうらみ 日 西乃象

おまゝのうらみ

尾と緒よりいふおまゝのうらみ 正伯
 賞もつと緒よりいふおまゝのうらみ 勝之
 道遠りあむいふおまゝのうらみ 正在
 花籠もあむいふおまゝのうらみ 日
 おまゝのうらみ 重峯 銚うれ

おまゝのうらみ

花よりいふおまゝのうらみ 宗畔

りらまよあ〜のあまふ葉 安春
 と〜〜〜のあまふ 善種
 ふ〜〜〜のあまふ 素白
 あ〜〜〜のあまふ 正伯
 あまふのあまふ中根 利次

色葉

大風よ花やいろは乃折をい 正重
 うあ〜〜〜いろは乃折をい 梶 家吉
 ち〜〜〜いろは乃折をい 未宣

風吹く東風よ〜いろは乃折 吉重
 吹ら〜〜〜いろは乃折 宗久
 り〜〜〜いろは乃折 勝明
 いろは乃折は〜いろは乃折 大坂 治平
 いろは乃折は〜いろは乃折 正伯
 もあ〜〜〜いろは乃折 光正
 あ〜〜〜いろは乃折 素白

麻

ち〜〜〜のあまふ 正種

瘦山よむ 麻るるるりきり
 山里らそそひらうの森えりれ
 麻も角落と僧糸乃教元か
 牙乃志のおとらへあふさう
 足引乃山此麻のや足袋の枝
 持る乃あし思持やとるさ
 い袖よふそあとおもめ麻あさ
 うひゆや叢乃肩の白負麻
 持えりあううそあさ乃勢
 うら指の野よふと麻や猿紙つ了
 一有 先正 月 正伯 正在 重吉 利重 廣友 松安 秀盛

ありふりきんあまふのあし
 ろくあつたけりしあし乃麻
 ふりそそあもあさうか麻
 帯乃うんあうあまあま
 善種 月 素白 日

芭蕉

松風よるあしとせあ乃神
 尾花乃人神乃くさる色
 松乃あつたけりしあし乃
 扇乃あつたけりしあし乃
 宗光 素白 一有 正伯

福さるる故のありてはさるるを公なる
風よありのありてはさるるを善種
正伯

元正家

雲乃元正とて風中なるもるる家
福ありてはさるるを正伯
正伯
ひささるや源氏供養のよむ元
ひささるや野分なるもるる家
素白
大徳寺入院のよむるもるる家
けいさるや福じらなるもるる家
紹節

菅穂

菅乃穂とて鹿乃毛交の入りか
善乃代やいふか千年なるもるる家
善種
難波女乃ひささるのありてはさるる家
正伯
難波のありてはさるるのありてはさるる家
交子

小鷹将

今そひささるのありてはさるる家
交野乃色とて母なるもるる家
正在
素白
今そひささるのありてはさるる家
素白
素白

あつらひの酒もやまもや小春の物 正伯

暖酒

冬肌やあつらひの酒もや大由謙也

神子の舞りあつらひの酒もや大由重吉

かこはれやあつらひの酒の酒もや 正伯

九月盡

あまききう金あふく

ききのことけいぬやまうく九十月 宗暁

花もよやまを隣り月つるも 一有

つゆ乃まに麻子とわおやうりる花 光正

秋乃の秋もまのり月のるか 素白

くねくゆの花もや古給 正伯

甲神次もよりのりそあつらひの言 月

難花

しゆとあつらひの暮もく細乃出沙門 秀盛

神おりの花もやうりるのそとあ 元貞

野ふかもやあつらひの暮もあつらひの言 正守

江守上

大地うらまひ出づるやうらまひのま
 利根ふかみしるや夢多れ死する
 まうらまひあつてもあつぬ種夢か
 うらまひせやうらまひかひ夢多の虫
 わらへどもあつらひはにほ夢多か
 涙無よ夢多種うらまひの洞か非
 旅風はあつたれえうらまひのうら
 珠敷あつたれ種多うらまひのうら
 あつたやあつたうらまひのうら
 ふらうらまひのうらまひのうら

宗秀

正舎

正伯

郡旧

成政

一有

宗時

正重

貞則

納元

屋のまやうらまひのうらまひ
 長衣や扇浮の中かおのま合
 旅のまよふまよふ一秋の海うら
 旅の目あり一秋のまよふうら
 雨うらまひのうらまひのうら
 夢入るやうらまひのうらまひ
 秋のまよふ扇のまよふ一梅のま
 花のまよふうらまひのうらまひ
 けうらまひのまよふうらまひ
 うらまひのまよふうらまひ

正次

光正

素白

兼正

善種

秀盛

一有

勝直

秀清

正伯

沙金袋

二

七
三
八

